

葦某は焼けなかつたが、ともかく兩者とも切腹せしめた記事が見えてゐる。但しこの場合にあつては正則の處置が決して深重の態度に出たとは受取られない。「たはけたる公事故誰もわけ手無之」ため正則は「扱々にくき奴らにて何とも申付様無之間神前にてつ火とらせ候様に申付け」落着の後は無罪と認めらるべき無傷者に對しても「ばかなる仕方ごもにて腹切らせ候へ」とて、折角神托を乞はしめながら喧嘩兩成敗の形ちに落着せしめて

ゐるのである。然し、正則の處置と鐵火に對する念慮等についてはともかくとして、その方法が慣習されてゐたことは充分この記事から推察することが出来る。

(四)同じく豊臣氏の時代に、徳本と稱するものその弟と相争ひ、遂に官裁により京都北野祠前に於て火起請に及んだが、弟は傷き兄は自若たりとしてある。これは倭訓栞に引いてある例證である。

西洋に於ける東洋の影響(特に中古期に於ける) (下)

Der Einfluss des Morgenlands auf das Abendland.
(Vornehmlich während des Mittelalters)

ゲオルク・ヤコブ著

文學士 宮崎市定抄譯

物語の歴史を辿るも亦面白き題材なり。舊約聖書の其中に重要な地位を占むるが、之が福音書の文學的形式は古典古代の文學よりは説明されず前福音書がアラマイク語にて書かれしは疑なし。

かのペテロの否認の物語の如き、今なほアテマイ

影響され居るなり。

ク翻譯の中に本源の生命を呼吸しつゝありて、かの異様な希臘の上衣を着たるものよりは如實の魅力を有す。一聖者の生涯、其奇蹟及び豫言せられたる死などを公平に記せる書籍は東方全般に行はれ、彼の與へし格言に別種の意味を生ぜしむ。

古代獨逸文學の入口にはヘリアンドとオトフリードが立ちて多くの東方文學が之に續き、近代獨逸文學にもクロブシトクの救世主が立ち居れど之は古典的衣裳をつけたるが爲に無味乾燥なものと化し了れり。ダニエル書は天啓書の原本となれり

ゲーテは幼時舊約を深く學び、モーゼ傳説コーラン傳説はそのファウストの形式に甚大の影響を及ぼせり。地神の場面はかの火の藪へ神の出現する所に基き、二幕の死の場面は後期ユダヤのモーゼの死より取り、前曲は明かに印度戯曲ヒオブ書より借りたり。ダンテもアラビア文學より甚だ多く

多數の童話、傳説、笑話に於ても印度が其故郷なるは明かなり。注意すべきは佛教傳説が、バルラム、ヨサファトに於て一神教の三派の教化書となれる事なり。又馬が鈴をならして國王に訴へしてふ話は印度よりアラビアの仲介を経て獨逸までも來れり、イゾルデ・ワイスハンド物語は十世紀アラビアのアラガニ書に原本あること知られたり。なほ多くの中世歐洲の教會詩はかゝる方面にその由來を求め得べし。

吾人の叙情詩は獨逸教會詩の全盛時代まで、最も多くヘブライ讚美歌の影響の下に立てり。只ヘブライの詩のみが特に他の近きセム民族より獨立して特殊の性質を有することは何人も思ひ設けざるべきが、吾人がバビロンの懺悔詩を知るに及んで、這般の消息を得たり。ユダヤ流浪後の詩篇はそのバビロン幽囚中バビロンの影響の下に發生せ

る如く見ゆ。果して然らばバビロンの詩は獨逸教會詩となりて今日まで生命あるなり。

更に劇場に一瞥を與へんか。十八世紀の舞臺藝術歌劇は支那の影響の下に發達せり。支那より來れる影繪はローマン派等によりて愛護され、殊にシワーピングの影繪芝居はネオ・ロマン派によりて藝術的價值を附與せられたり。一七六〇年ナミキ・シヨウゾウ(並木正三)が發明せる廻り舞臺は十九世紀になりて日本より來りしが、こは長き幕間ひを省きて藝術的興奮の中絶を免れしむるを得るものなり。

吾人の日常生活より娛樂に至る迄、東方の習慣が入り込み。外界に全く無頓着に遊戲に没頭せる將棋指しは正に西方に於る一東洋なり。この遊戲の故郷は印度なり。將棋のアラビア語シャトルンチは梵語チャトランガ(四肢、軍)より出づ。

中世波斯の記録によれば、印度王デウツレムは十

六の綠玉、十六の紅玉よりなる將棋をコスロウ・アノシャルワンに贈れりと。アラビア文學最古の將棋に關する記述はイブン・アルムタズの詩に見ゆ。彼は之を以て無駄話より免れ、仕事に専心ならしむ可き遊戲として賞讃せり。Schach は云ふ迄もなく波斯語「王」にして、Mat(王手)はアラビア語の彼死せりてふ動詞 Mat の母音短縮なり。或は支那が將棋の最古の發明者なりとして西紀前三十世紀の傳説を引く者あれど勿論用心して聞かざるべからず。又曰く、周穆王の陵上の蜜柑叢の中に石窟ありて、其中より將棋が発見されたりと。この將棋は始め占星術に關係し、天體の運行を測定し得る人にして始めて巧に遊び得べしと云はれたりき。紙鳶は古く紀元前二〇二年韓信が發明せり紙鳶は支那にては西洋に於るよりも遙に美しき形をなし、時に動物、花に摸し、時には風絃の如き唸りを發する音樂的裝置を有す。傳説によれば紙

鷹は支那より東蒲塞に來れりと。支那に於る如くトルコに於ても紙鷹あげは子供のみならず、大人の娛樂なり。紙鷹は十七世紀の半頃乃ち支那崇拜の初期に始めて知られ、英語、佛語ともに鷹なる語にて示さる。

マホメットの禁酒なかりせば珈琲はそのイスラム世界を征服する能はざりしならん。今日では獨逸に於ても遂に在來の黍粥を驅逐せり。古代アラビア語カーフはもと葡萄酒を意味せしが、その代用物を指すやうに轉じたりき。最初の珈琲店は一五五四／五年に、コンスタンチノブルにて、二人のシリア人によりて立てられたりき。一五八三年此地に來れる旅行家はなほ之を知らずして、トルコ人の黒き飲料に驚愕せり。曰く、トルコ人は朝早く公開の席にて、大せいの人に憚る所なく、陶器の深き碗より、出來る限り熱き飲料を飲むと。珈琲は東方にては碾かれずして搗かれ、精として

なく穀もろ共接排され、決して牛乳を加へず、稀には砂糖を加へて賞玩物より營養物に變ずることもありき。熱き東方の氣候に弱らされたる者は何人も、珈琲の興奮劑としての價值を認むるに吝かならざるべし。

珈琲の競争者、茶は十七世紀に支那より歐洲に持ち來されしが、その單綴の支那名がよく表はせり。但し和蘭の *thee* と英語の *tea* との母音の相違は方言の異なる地方より各々輸出されたればなり。和蘭人は臺灣にて之を知れりと云ふ。獨逸にては大選帝侯が茶の愛用者なる一和蘭人を侍醫とせるより知らる。この香の柔かき飲料は東西の文化、社會、經濟、歴史に重要な意義を有す。十七世紀の日本の茶の湯は一の藝術なり。更に茶税が米國の獨立を促す動機となりしを思ふべし。古代トルコ遊牧民に行はれし凝結牛乳ヨグルトは今もオスマンに其名殘れり。其物は以前には東

方旅行者にのみ喜ばれしが、近頃獨逸にても普通に用ひられ、アルコール分を含みぬ味よき滋養強壯劑として好評を博せり。

最後に佛蘭西の國民的飲料とも云ふべきアンブンはアルヂエールより起れり。此地はもと飲料水の質惡き爲之にて飲み易くせり。その名は波斯より來れりと云ふ。ブンは波斯名にて五を意味するがこは印度にて始め五要素より造られたればなり。五要素とはアラク、砂糖、レモン汁、香料、水にて、シラーが之を歌ひて、四つの要素が内に含まれ、と云へるは香料を忘れしなり。この四つは已に埃及人が古代に於て調合せる所なるが、パピロニアにては更に古く、晚くも西紀前二八〇〇年の頃には知られたり。葡萄酒に對する希臘語、羅典語はセム語に由來せり。葡萄酒の傳播に對する羅馬人の功績は過大に誇張さるゝが、葡萄は已に羅馬帝國の建設以前にラインの岸に成長せるな

り。殊にヨハネスベルグ等の獨逸の優良種は羅馬人によらず、中世になりて東方多分シリア邊より輸入されたるものなり。

若しそれ吾人の田野が耕され、蜜蜂が餌をあさるの時、蕎麥畑の白き花、よき香に心を喜ばしむるならば、この滿洲原産物を此處まで持ち來りたる蒙古人の世界征服に感謝せざるべからず。又ある伊太利崇拜者が南へ來りて先づ棕櫚を見て、感激のあまり禮拜したりてふが、この棕櫚はアブドラマン一世が八世紀に、シリアより西班牙に移し植えたるに始まれり。砂糖及び甘蔗はその東方イラン名が由來を示す。古典古代人は蜂蜜にて満足せしが、砂糖の傳播に就ては吾人は之を西班牙に持ち來れるアラビア人に感謝せざるべからず。野菜について云へば菠薐草は波斯より、アラビア人の手にて西班牙を通りて來り、朝鮮芹の英語名はアラビアの轉訛なるを示す。獨逸の國民的食物な

るキヤベツは中世始めてスラヴより借り來りしが之も更に東方の發明に係る。最も重要な香料は勿論東方に起り、其語原を尋ねれば多く東方に求めらるゝこと胡椒の如し。

吾人の自然界の風景も東方の影響にていたく變化せり。かの並木には七葉樹が春には華美なる蠟燭をつけ、秋には磨ける果實を播く。トルコ人は其他多くの植物を吾人に與へたり。波斯人は古くより希臘人が天性よりの花卉愛好者と名附けし程なるが、トルコ人が此に侵入するや直ちにその相續者となれるなり。鬱金香草は一時和蘭に流行し十七世紀の頃にはその新種に對して驚く可き巨額の金額が支拂はれしが、オスマン帝國に於ても其病的ともいふ可き尊重は古くよりありしなり。薔薇の優良種も同じく東方より起れり。薔薇油搾取のため獨逸にても重要視され來りしダマスセネル種は十字軍によりシリアより先づ佛蘭西に移植さ

れたるなりき。薔薇を印度より移入しはじめたりその栽培は一大飛躍の進歩をなせり。支那種も亦等閑視すべからずして一八一〇年コウシンバラは始めて支那より英國に來りて根をすゑ、一八二四年にはカルカツタより黄色のコウシンバラが届けり。椿は茶の一種なるが十八世紀末に歐洲人の注意を引けり。更に支那より來りて吾人の公園に植ゑられたるフォルシチアは春まだき硫黄色の花をつけて吾人の目を喜ばしむ。十六世紀の半に楊梅はトラベツントより維納に達し、香しき木犀は埃及に起り一七五二年アフリカより英國に移されたり。

東方動物の飼育について云はんに先づ、英國に於る支那の狎、佛國に於るコラツサンのアングラ猫、一六九一年英國に達せる金魚、支那崇拜時代各國王庭に立てられし養雉所等が思ひ出さる。放鷹術も東方より來りしらし。日本にては鷹狩は仁

德天皇時代に表はる。ホーヘンシタウフ家のフリドリヒ二世が如何にアラビア人の放鷹術を尊重せしかはアラビア型に従ひて帽子を製らしめし程なり。家禽に關しても孔雀は印度より孵化器は埃及より起れり。孵化器の最も古き記録は一四六〇年頃の埃及旅行記に、古きカイロの町の跡なるバビロン市には雛を孵へす竈あり、時に一萬二千箇の卵を竈に入れ熱き灰もて温む、雛は孵へると卵の殻よりとび出すが一日八百羽も出る事ありて適宜に販賣さる云々と、傳書鳩は已に一千年前より埃及にあり。古代埃及の記録によれば吾人が今日馴致すべからざる如く考ふる蠻狗の如きまでも飼育せり。今日象の家畜としては印度象のみを考ふるが、カルタゴ人はアラビア象をも馴したり。キルギス人は犬鷲を、波斯人は梟を狩に用ゐ、日本人は鶇にて漁獵す。下ライン地方にては鶇飼を眞似しはじめたり。古代埃及人は今日の鶇鳥の外に甚

だ多くの鶇鳥を飼育せり。支那にては猿が學者文人の爲に墨を磨り水を運び、古代埃及にては婦人の香箱を持ち、犬と共に主人の伴をし、無花果を木より摘み、或は籃に集めて人の所へ持ち運ぶに使用されたり。アンゴラ山羊は多分トルコ人が小亞に持ち來り、メリメ細羊はトレムセン附近ベニマリンの名に負ふ。アラビア馬は世界の良馬なり凡そ斯の如き仕事に於ては祖先來幾代かの辛苦の結果が吾人に利益を與ふるに至りし事を思はざるべからず。

野草は民族と共に傳播しその遠征に附隨するものなるが、ハンガリの要塞の壁上に、維納の城壁の上に生ずるシリア・オイクリデウムなる雜草は嘗て大なりしオスマン帝國の舊を偲ばしむ。その種を落せるは馬の飼料袋なりき。氷河時代に獨逸には蝶は生存せず、後に南シベリアより侵入し、今なほ西北に向つて進行す。鳥類帶に就ても、若

し獵師が五彩の外來客が新巢を求めに來るをば鐵砲もて無下に打落すことなくば今頃は甚だ美しき光景をそふるならんが、古代獨逸より已に親密なりし子規すら今日は其二百種の美しき家族の一種として此に孤立せる前哨線を形成するに止まるのみ。

地上の衣のみならず、吾人身上の衣服も東方の影響を蒙る。吾人の日常の衣服は一部分は吾人獨特のものなるが、一部分はアフリカのモール人より得たるものなり。モール人の着たる如きズボン式衣服は廣く東方波斯まで擴がれるものなるが、こはかの古代希臘羅馬とは何の關係もなきのみか反つて著しき差違點を有す。華美なる衣裝と云へば誰も東方スラブを聯想するなるべし。吾人の婦人も近頃キモノがごうの、キモノの袖がごうのと云ふやうになれり。日露戰爭後、日本の女髻が歐洲に入りしが、半世紀前にはトルコのバシリク風

が、更に一代前にはカシ米尔・シヨウルが流行し、今なほ勃牙利シャツの流行するあり。東方の美しき極樂鳥等の羽は婦人帽を飾り、印度の孔雀の羽は一般裝飾用として中世已に好評を博せり。古代の制服について云へば驃騎兵の熊皮帽の耳は、トルコのイエニツエリ軍帽の尻尾より來れり。同様に普魯西軍隊の各兵料も殆ど皆トルコ由來にて

其名世界に轟ける

吾等はプロシヤの槍騎兵

と誇る槍騎兵が已にトルコ語にて若者を意味せる語より出たり。

上述する所によりて余は在來の不幸なる偏見を散じ得たりと信ず。一民族の文化生活は各種各様の根原より發す。吾人の文化要素の由來を鳥瞰せんとせば、之まで齒牙にもかけられざりしアメリカの影響より、更には吾人特有の要素、ケルト要素

北方人要素等に至るまで考慮の中に入れざるべからず。植物學者が其研究を單なる一科の植物に限る能はざる如く、宗教に於ても、經驗の全體に立脚せざる偏見なる宗教は何人も論するに足らざるなり。言語學に於て然り、美術に於て然り。詩人は歌ふ、半分だけ丁寧に了解するは、全般を一瞥するに如かず。

理想と現實を混同する勿れ。古典派ギムナジウムに於ける希臘哲學の入門と云へば原語でプラトンのプロタゴラスの最初の三分の一を誤用し、講義で全然表面だけのことを教授さるゝに止まる。半學年かゝりてアイアスの一二頁をこぢつたるのみにて、希臘哲學の意義、ドラマの價值については教師も生徒も意識朦朧たるを如何せん。寧ろ吾人は愚譯にてもあれ、之によりて希臘の悲劇喜劇の全般に通せん事こそ望ましかれ。吾人は屢々羅句語、佛蘭西語、歷史學、獨逸語の學習に際して

ゼルビウス・ツリウス、ツルス・ホスチリウスとかいふものに浮身を窺して、眞の世界史的價值、例へば和蘭、英吉利の植民地の發達とか、アメリカ或は東方スラヴの發展とかの智識に對する渴望は毫も瘡やされずして過ることあるを悲むものなり吾人の如き者に從ひては在來のこちたき譬喩多き文學藝術が分らなくなると心配する向もあらんかなれど、これ教育の眞義に關せざるなり。吾人は羅馬の歴史を研究するに羅馬の史料によりて之をみるときは、其美なる方面を知るのみ、いかに其吸血主義の醜なるかを知らず、歴史を偽造するに至りて怪まざるなり。東方を見よ、地平線の彼方なる東亞には遙の古代に大史家現はれて、世界史の著述に指を染めしに非ずや、彼は民族の移動を説き、古代世界の分裂を説き、以て新國民の發生に及びたりき。一國民の特性を理解するは文化及び歴史に取りて最も緊要なり。古典古代は此點に

關して第一條件を缺けり。今日精神科學の根柢と思惟さるゝ言語學これなり。今日の吾人は生存競爭の武器として更に一層廣き舞臺を要する秋なりサビニ戰役、サムニテ戰役はごうでもよし。口に人道主義を唱ふる者こそ、人道主義の妨害者なり支那は希臘よりも遙に純に人道主義を體現し居れり。支那を輕蔑する勿れ。支那は一種のロマンチックとも名附く可き、過ぎ去りし文化に對する憧憬を持てり。されど歐洲にては之と異り、羅甸、希臘に通じ、シセロの友たり得る古典教育を受けし紳士にして始めて人生を所理し得べしとなさば即ち誤れり。希臘羅馬の精神は已に吾人の精神に非ればなり。こは廣く世界を旅行したる人の最も切實に痛感する所なり。近代人、殊に狹量なる獨逸人にとりて、全人類なる理想こそ、全國民の發展に導くものゝ大學の使命もまた之に外ならざるなり。

(譯者曰。抄譯の主旨は大體を紹介するにありたるをもて、原書には引用となりたる所も、差支へなしと認めたるものは悉く著者の意見なるが如く改め、他にも諸種の外國語を挿入しては文理を害せんことを恐れて之を省きし爲、著しく非學術的となりしを特に此に附言して著者並に讀者の海容を請はんす。)